

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホームたいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺950-7
自己評価作成日	平成 23年 10月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が共同生活の中で、ご自身の思いや希望を表現できるように、笑う・泣く・怒るという感情を自由に出せる環境作りを心がけ、共に過ごし互いに支え合う関係を大切にしています。利用者の方と家族の絆が強く深くなるように、家族と情報の交換・共有・相談をし、協力して暮らしの支援をしています。地域行事への参加・小学校や他事業所との交流など、地域とのつながりを大切にしています。日々、利用者の方の心身状況の変化を見極め重度化しないよう、迅速に医療従事者へ連絡をし早期治療・対応をしています。グループホームたいさんじが『利用者の方と家族が安心して暮らす場所』『認知症介護について地域へ発信の場』『職員が活き活きと働く場所』であるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から9年目を迎え介護度の高くなった利用者も多いが、母体の医療機関による適切な健康管理により利用者や家族は安心して生活している。管理者をはじめ、計画作成担当者や介護職員の多くが開設当初から変わらず勤務しており、利用者や馴染みの関係の築いている。職員の心のこもった手作りの食事は、「食べる」という楽しみを支援することで利用者一人ひとりの生きる喜びにつなげている。管理者は長く勤務することで慣れ合いにならないよう注意しており、職員も介護のプロとして使命感をもって日々の職務に従事している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名	グループホームたいさんじ
(ユニット名)	一階
記入者(管理者)	
氏名	白石 かおり
評価完了日	平成 23年 10月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者と一緒に考えた地域密着型の理念を作成して、1階の玄関フロアに掲示し、職員間で話し合いをし、日々のケアに活かしている。</p> <p>(外部評価) 「地域の人達とのかかわりを大切にし、元気で穏やかにみんなと共に暮らす」を理念に掲げ、玄関に掲示し全職員が共有して日々実践に向けて取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の運動会や祭りに参加したり、地域の方や登下校時の小中学生と挨拶をし、交流している。</p> <p>(外部評価) 毎年10月にある地区の運動会や、春祭りの子供みこしを観に行っている。地元の小中学生が総合学習の時間に訪問して利用者と交流したり、管理者が小学校で授業を行っている。運営推進会議には、地域から公民館の館長や民生委員に出席してもらっている。</p>	近くにある公民館ではフラダンスなどのサークル活動が行われている。公民館の館長を通じて事業所へボランティアに来てもらえるよう依頼するなど、地域住民とのさらなる交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小学校の総合学習（年をとるってどんな事・町探検）で、児童のグループホーム訪問・利用者や職員へのアンケート調査・参観日に出席する等、交流をしている。母体の病院で、地域に向けて月一回、認知症や高齢者福祉についての研修をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 介護保険課・地域包括支援センターの職員、公民館館 長、民生委員、地域住民の方、利用者家族、他グルー プホームの職員の出席がある。日々の生活状況やケア 内容など報告し、活発な意見交換をしてサービスの向 上に活かしている。	
			(外部評価) 市担当者や地域住民代表、利用者家族等の参加を得 て、2か月ごとに開催している。他のグループホーム との連携もあり相互に参加し合うことで、良い情報交 換の場となっている。具体的な事例をあげ意見交換を 行い、そこでの意見が日々のケアに活かされている。 議事録は詳細に記載され、参加できなかった職員にも 報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 自・他グループホームの運営推進会議や、市の介護保 険課・地域包括支援センター主催の事業者連絡会に出 席し、質問や意見交換を行い協力関係を築いている。 電話での相談もしている。	
			(外部評価) 市役所担当者と地域包括支援センター職員は運営推進 会議に毎回出席し、事業所の状況を把握し助言や情報 提供を行っている。管理者も事業所連絡会等を通じて 連携し協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、出入り口の鍵をかけず誰でも自由に行き来し ている。利用者の心身状態によってやむをえない場合 に限り、家族へ説明・相談をし同意を得ている。毎月 経過観察をし、拘束解除に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は研修を受け身体拘束について正しく理解し実践 している。玄関は施錠せず、センサーを設置し対応し ている。ベッド柵をする場合は利用者と家族に説明 し、利用者の状況を職員間で話し合いながら取り組ん でいる。言葉での拘束についても気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修を受講し、ミーティングで報告・話し合いをしている。利用者への呼び名や言葉使い・対応など、ケアの内容を見直し虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての研修を受講し制度の理解に努めている。制度を活用している方はいないが、家族より問い合わせがあった時には相談にのっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約書・重要事項説明書などの書類は、時間をかけてじっくり丁寧に説明をし、疑問や質問に答えている。また、事業所で出来る事・出来ない事や家族に協力して貰う事を明確にし、理解・納得を図っている。契約終結時にも家族と話し合いをし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や食事会の場で意見や要望を聞き、理事長出席のミーティングや運営推進会議で報告し運営に活かしている。家族には、「どんな小さな事でも疑問に思った事など言って下さい。」と声を掛けている。 (外部評価) 家族の来所は少なくとも月1回はあり、その時に意見や要望を聞くようにしている。年2回家族会や年末に食事会を開催している。家族から質問や要望があった場合は、申し送りノートに記載し管理者に報告している。職員会でも話し合い、ケアに活かせるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングで出た提案や意見を、理事長出席のミーティングで報告し検討をしている。 (外部評価) 長年勤務している職員が多く、代表者や管理者とも話しやすい関係が構築されている。職員の希望に応じて、事業所負担で外部研修へも参加している。職員の意見等を反映させ、働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 理事長は、度々ホームに来て利用者・職員と関わり状況の把握をしている。無理のない勤務ローテーションで働きやすい環境にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員に研修情報を開示し、希望する研修が受講できるような勤務の調整を行い、事業所が受講料の負担をしている。母体病院で、毎月研修を開催し参加出来るよう配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域にあるグループホームと運営推進会議や行事などで交流をしている。愛媛県地域密着型サービス協会主催の相互研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談時は、自宅で面談をしたり利用中のサービス事業所を訪問して、暮らしぶりや介護サービスの利用状況を把握している。本人との会話や行動から困っている事や要望などをくみ取り、安心の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談に至るまでの暮らしぶりや介護の状況、家族・本人の介護に対する思いなど、時間をかけて聞いている。家族の要望を聞き、事業所ができる事・出来ない事、家族対応をお願いする事の話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の状況や思いを確認し、必要なサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の下ごしらえを一緒にし、作り方を教わっている。一緒に庭に出て、洗濯物を干して取り込みたんでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や電話等で、本人の暮らしぶりや体調・気持ちを報告し、家族と職員が本人の心身状況を共有して本人を共に支えていく関係作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と相談し、友人や親戚との交流が出来るようにしている。面会時には、ゆっくり過ごせるよう環境を整えている。また、ハガキや電話の取次ぎをしている。 (外部評価) 友人や知人が訪ねて来たり、家族と自宅に帰る利用者もいる。入居期間の長い利用者は、事業所が我が家となっており、職員や他の利用者と馴染みの関係が継続できるよう支援している。訪問理容サービスも馴染みとなっており定期的に利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格や相性を把握し、利用者同士が一緒過ごせるよう良い雰囲気になるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族と本人に了承を得、退居先へ会いに行っている。家族から相談があれば対応をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人との会話や表情・仕草からやりたい事や思いを把握するよう心がけている。 (外部評価) 食べることが楽しみな利用者が多く、利用者の好みや希望を把握するよう努めている。把握した情報はミーティングで話し合い、利用者の喜びや楽しみになるよう全職員が共有し、より良いケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族・友人・介護支援専門員・入居以前に利用していたサービス事業所から話を聞いている。基本情報や看護要約から生活環境や歴史を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方を把握しているが、日々状態が変わっている。本人の状況に合わせて、今どんな支援が必要なのか把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族に暮らしに対する希望や意見を聞き、本人の出来る事やわかる事を見極め、ミーティングでカンファレンスを行っている。 (外部評価) 利用者ごとに担当を決め、毎月のミーティングで全職員で話し合っている。センター方式の書式を使い3か月ごとにモニタリングを行い見直しをしている。心身の状況が変化した場合は、随時検討し全職員が共有して計画に沿ったケアの実施に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その時々言動や対応を個別生活記録に記入し、職員間で同じ情報を共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の心身状況や、家族の状況に応じて病院受診の付き添いや送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) グループホームの行事で公園を利用したり、公民館や小学校の行事へ参加している。消防署・民生委員・包括支援センター・他事業所と相談や意見の交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人と家族が希望する入居前からのかかりつけ医や協 力医療機関と連携し、受診の支援をしている。本人の 状況を家族に伝え、症状や状況に応じた適切な医療が 受けられるようにしている。</p> <p>(外部評価) 受診支援に関しては、重要事項の中で説明し同意を得 ている。看護師を配置し医療機関との連携もスムーズ に行えている。ほとんどの利用者は代表が主治医と なっており、月2回往診がされている。家族へは毎月 請求時に内容の説明を行い、必要に応じて主治医が直 接説明することもある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 一人ひとりの普段の状態を良く知り、変化があれば看 護師へ報告をし状態を見てもらう。看護師より主治医 やかかりつけ医へ上申し適切な処置や受診が出来るよ うにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際には、本人の心身状況や生活状況を口頭と文 書にて病院関係者へ伝えている。面会が出来る状態に なれば、度々お見舞いに行き情報の交換や相談をして いる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居相談時や家族会で、グループホームの看取りにつ いての指針やホームで出来る事、出来ない事の説明を している。状態の変化時には、その都度家族の意向や 希望を確認し、家族・医師・管理者で話し合い方針を 決めている。決まった事をスタッフ全員に周知しチー ムでの支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を示し、利用者と家族に説明して いる。重度化が進み経口摂取ができなくなった利用者 は、協力病院等へ入院している。医療機関が母体であ り、今後は事業所での看取りも検討している。</p>	看取りの方針を全職員が理解し、知識や技術の向上を 図るなど、受け入れ体制整備の取り組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応について、日頃より看護師から指導・説明を受けて日常のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間や地震・津波・火災を想定した避難訓練を2回以上行っている。近隣の消防署と協力体制を築いている。 (外部評価) 火災や地震、津波を想定して年2回避難訓練を実施している。消火器やスプリンクラー、通報装置を整備するなど安全対策に努めている。運営推進会議でも取り上げ検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせ、本人が分かりやすい言葉掛け(方言等)や対応を心掛けているが、声が大きくなったり語気が荒くなる時がある。ミーティングで言葉掛けや対応について、これで良かったのかどうか、気付いた事や気になる事を話し合い、見直しをしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。職員同士もミーティング等で話し合い、お互いに注意合っている。トイレ誘導もプライバシーに配慮しさりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に、どうしたいか聞き本人の意向を確認している。また、思いを表現できない方には、本人に説明してから対応を始め本人の様子を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床・就寝・食事の時間等、一人一人の体調や気持ちを確認しながら本人の希望に添うよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日の髭剃りや入浴後の肌の手入れ・好みの服を着る等、身だしなみの支援をしている。2ヶ月に1回の訪問理美容があり、好みの髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の味付けや食事作り・後片付けなど、本人ができる事を一緒にしている。時間のずれはあるが、皆で食卓を囲み賑やかに食事をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望や好みを取り入れた季節感ある献立は美味しく調理されており、ほとんどの利用者が自力で完食している。職員も同じ物を食べながら見守りや一部介助をしている。食後の片づけを手伝っている利用者もいる。義歯の使用にも配慮し、安全に楽しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の食事摂取量や水分摂取量が分かるように記録をし、個人の身体状況に合わせ、水分摂取の制限をしたり、ミキサー食・お粥にし食べやすいようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の後は、声を掛けて一緒に自室行きブラッシングの介助や歯を磨くまでの支援をしている。週に2回、義歯を洗浄液に浸けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄行動や時間を把握し、なるべくトイレで排泄ができるように、トイレの声掛けや介助をしている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツやパッドを使用する場合は家族と相談し、大きさ等適切な物を使用するようにしている。また、入居前の生活習慣等に配慮した対応も心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い野菜・果物や乳製品を献立に入れ、少しでも多く摂れるようにしている。便秘時には主治医に上申し、必要に応じて下剤の処方をしてもらい、状況を見ながら服薬の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日中の入浴だが、本人の体調や気持ちに合わせて入浴出来るようにしている。	
			(外部評価) その日の気温や利用者の体調、声かけのタイミング等工夫しながら少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。必要に応じて同性介助を行ったり、個々に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調を見極め、食事と食事の間に自室で休んだり、自分で移動出来る方は、休みたい時に好きな所で自由に休んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。薬の処方の変更時には、職員全員が把握できるように申し送りノートへ記入し知らせている。服薬時には、薬を飲み込むまでの確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意な事・やりたい事（洗濯・掃除・調理・荷物運び・ドライブ等）をし、生き生きとした暮らしが送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調の良い方と一緒に買い物やドライブに出かけたり、案内状を配りに行っている。家族と一緒に自宅へ行ったり墓参りをしている。	
			(外部評価) 地元のスーパー等へ買物に行ったり、気分転換にドライブをしたりしている。リハビリのため定期的に通院している利用者もいる。事業所の敷地が広く庭で外気浴を楽しむこともできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金の所持を希望した時は、家族と相談し小額を本人が持ち、購入品の支払い等に使っている。個人のお金を預る時は、現金の預かり証を手渡している。また、預り金出納帳を作成し毎月コピーを家族に送り使途内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人への連絡を希望する時は、代わりに電話をかけて話が出来るようにしている。また、希望する相手によっては、家族に報告し了解を得てからかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は広々としたスペースにしている。花や小物をかざり季節感を採り入れている。室温や湿度の調整と換気をして心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 毎朝申し送りの後掃除し、清潔保持に努めている。玄関や各居室を見渡すことができる食堂兼居間では、洗濯物を畳んだりお茶を飲んだり、利用者がそれぞれ思い思いに過ごすことができている。風通しも良く、室温等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや台所にそれぞれの居場所があり、好きなテレビを見たり、じっくり新聞を読んだり、休んだり、自由に過ごしている。玄関ポーチや駐輪場のベンチで過ごす方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人と家族に相談をして、本人が使いやすく動きやすい家具の配置にしている。使い慣れた家具や、家族の写真・花等を飾っている。	
			(外部評価) 居室には洗面台、タンス、ベッドが備え付けられており、利用者ごとに写真や花等が飾られてある。職員は利用者のプライバシーに配慮し同意を得ながら、居室の環境整備を行っている。大きな収納があるため利用者のお気に入りのものを十分持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フロー内は段差がなく、浴室・トイレ・廊下・玄関に手すりを付けている。個人の目線に合わせた高さの名札を付けている。自室内の家具の配置は、本人が安全に動けるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成 23年 10月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が共同生活の中で、ご自身の思いや希望を表現できるように、笑う・泣く・怒るという感情を自由に出せる環境作りを心がけ、共に過ごし互いに支え合う関係を大切にしています。利用者の方と家族の絆が強く深くなるように、家族と情報の交換・共有・相談をし、協力して暮らしの支援をしています。地域行事への参加・小学校や他事業所との交流など、地域とのつながりを大切にしています。日々、利用者の方の心身状況の変化を見極め重度化しないよう、迅速に医療従事者へ連絡をし早期治療・対応をしています。グループホームたいさんじが『利用者の方と家族が安心して暮らす場所』『認知症介護について地域への発信の場』『職員が生き活きと働く場所』であるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から9年目を迎え介護度の高くなった利用者も多いが、母体の医療機関による適切な健康管理により利用者や家族は安心して生活している。管理者をはじめ、計画作成担当者や介護職員の多くが開設当初から変わらず勤務しており、利用者との馴染みの関係を築いている。職員の心のこもった手作りの食事は、「食べる」という楽しみを支援することで利用者一人ひとりの生きる喜びにつなげている。管理者は長く勤務することで慣れ合いにならないよう注意しており、職員も介護のプロとして使命感をもって日々の職務に従事している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム たいさんじ

(ユニット名) 二階

記入者(管理者)
氏名 白石 かおり

評価完了日 23年 10月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者と一緒に考えた地域密着型の理念を作成して、2階の玄関フロアに掲示し、職員間で話し合いをし、日々のケアに活かしている。</p> <p>(外部評価) 「地域の人達とのかかわりを大切にし、元気で穏やかにみんなと共に暮らす」を理念に掲げ、玄関に掲示し全職員が共有して日々実践に向けて取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の運動会や祭りに参加し近隣の方々と交流をしている。</p> <p>(外部評価) 毎年10月にある地区の運動会や、春祭りの子供みこしを観に行っている。地元の小学生が総合学習の時間に訪問して利用者と交流したり、管理者が小学校で授業を行っている。運営推進会議には、地域から公民館の館長や民生委員に出席してもらっている。</p>	近くにある公民館ではフラダンスなどのサークル活動が行われている。公民館の館長を通じて事業所へボランティアに来てもらえるよう依頼するなど、地域住民とのさらなる交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小学校の総合学習（年をとるってどんな事・町探検）で、児童のグループホーム訪問・利用者や職員へのアンケート調査・参観日に出席する等、交流をしている。母体の病院で、地域に向けて月一回、認知症や高齢者福祉についての研修をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 介護保険課・地域包括支援センターの職員、公民館館 長、民生委員、地域住民の方、利用者家族、他グルー プホームの職員の出席がある。日々の生活状況やケア 内容など報告し、活発な意見交換をしてサービスの向 上に活かしている。	
			(外部評価) 市担当者や地域住民代表、利用者家族等の参加を得 て、2か月ごとに開催している。他のグループホーム との連携もあり相互に参加し合うことで、良い情報交 換の場となっている。具体的な事例をあげ意見交換を 行い、そこでの意見が日々のケアに活かされている。 議事録は詳細に記載され、参加できなかった職員にも 報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 自・他グループホームの運営推進会議や、市の介護保 険課・地域包括支援センター主催の事業者連絡会に出 席し、質問や意見交換を行い協力関係を築いている。 電話での相談もしている。	
			(外部評価) 市役所担当者と地域包括支援センター職員は運営推進 会議に毎回出席し、事業所の状況を把握し助言や情報 提供を行っている。管理者も事業所連絡会等を通じて 連携し協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、出入り口の鍵をかけず誰でも自由に行き来し ている。利用者の心身状態によってやむをえない場合 に限り、家族へ説明・相談をし同意を得ている。毎月 経過観察をし、拘束解除に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は研修を受け身体拘束について正しく理解し実践 している。玄関は施錠せず、センサーを設置し対応し ている。ベッド柵をする場合は利用者と家族に説明 し、利用者の状況を職員間で話し合いながら取り組ん でいる。言葉での拘束についても気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修を受講し、ミーティングで報告・話し合いをしている。利用者への呼び名や言葉使い・対応など、ケアの内容を見直し虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての研修を受講し制度の理解に努めている。制度を活用している方はいないが、家族より問い合わせがあった時には相談にのっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約書・重要事項説明書などの書類は、時間をかけてじっくり丁寧に説明をし、疑問や質問に答えている。また、事業所で出来る事・出来ない事や家族に協力して貰う事を明確にし、理解・納得を図っている。契約終了時にも家族と話し合いをし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や食事会の場で意見や要望を聞き、理事長出席のミーティングや運営推進会議で報告し運営に活かしている。家族には、「どんな小さな事でも疑問に思った事など言って下さい。」と声を掛けている。	
			(外部評価) 家族の来所は少なくとも月1回はあり、その時に意見や要望を聞くようにしている。年2回家族会や年末に食事会を開催している。家族から質問や要望があった場合は、申し送りノートに記載し管理者に報告している。職員会でも話し合い、ケアに活かせるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングで出た提案や意見を、理事長出席のミーティングで報告し検討をしている。 (外部評価) 長年勤務している職員が多く、代表者や管理者とも話しやすい関係が構築されている。職員の希望に応じて、事業所負担で外部研修へも参加している。職員の意見等を反映させ、働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 理事長は、度々ホームに来て利用者・職員と関わり状況の把握をしている。無理のない勤務ローテーションで働きやすい環境にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員に研修情報を開示し、希望する研修が受講できるような勤務の調整を行い、事業所が受講料の負担をしている。母体病院で、毎月研修を開催し参加出来るよう配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域にあるグループホームと運営推進会議や行事などで交流をしている。愛媛県地域密着型サービス協会主催の相互研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談時は、自宅で面談をしたり利用中のサービス事業所を訪問して、暮らしぶりや介護サービスの利用状況を把握している。本人との会話や行動から困っている事や要望などをくみ取り、安心の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談に至るまでの暮らしぶりや介護の状況、家族・本人の介護に対する思いなど、時間をかけて聞いている。家族の要望を聞き、事業所ができる事・出来ない事、家族対応をお願いする事の話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の状況や思いを確認し、必要なサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や掃除・洗濯物たたみ等、日常生活の中で出来る事を協力して行い、共に暮らしている関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や電話等で、本人の暮らしぶりや体調・気持ちを報告し、家族と職員が本人の心身状況を共有して本人を共に支えていく関係作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と相談し、友人や親戚との交流が出来るようにしている。面会時には、ゆっくり過ごせるよう環境を整えている。 (外部評価) 友人や知人が訪ねて来たり、家族と自宅に帰る利用者もいる。入居期間の長い利用者は、事業所が我が家となっており、職員や他の利用者と馴染みの関係が継続できるよう支援している。訪問理容サービスも馴染みとなっており定期的に利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格や相性を把握し、利用者同士が一緒過ごせるよう良い雰囲気になるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族と本人に了承を得、退居先へ会いに行っている。家族から相談があれば対応をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人との会話や表情・仕草からやりたい事や思いを把握するよう心がけている。 (外部評価) 食えることが楽しみな利用者が多く、利用者の好みや希望を把握するよう努めている。把握した情報はミーティングで話し合い、利用者の喜びや楽しみになるよう全職員が共有し、より良いケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族・友人・介護支援専門員・入居以前に利用していたサービス事業所から話を聞いている。基本情報や看護要約から生活環境や歴史を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方を把握しているが、日々状態が変わっている。本人の状況に合わせて、今どんな支援が必要なのか把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族に暮らしに対する希望や意見を聞き、本人の出来る事やわかる事を見極め、ミーティングでカンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当を決め、毎月のミーティングで全職員で話し合っている。センター方式の書式を使い3か月ごとにモニタリングを行い見直しをしている。心身の状況が変化した場合は、随時検討し全職員が共有して計画に沿ったケアの実施に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その時々言動や対応を個別生活記録に記入し、職員間で同じ情報を共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の心身状況や、家族の状況に応じて病院受診の付き添いや送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) グループホームの行事で公園を利用したり、公民館や小学校の行事へ参加している。消防署・民生委員・包括支援センター・他事業所と相談や意見の交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人と家族が希望する入居前からのかかりつけ医や協 力医療機関と連携し、受診の支援をしている。本人の 状況を家族に伝え、症状や状況に応じた適切な医療が 受けられるようにしている。</p> <p>(外部評価) 受診支援に関しては、重要事項の中で説明し同意を得 ている。看護師を配置し医療機関との連携もスムーズ に行えている。ほとんどの利用者は代表が主治医と なっており、月2回往診がされている。家族へは毎月 請求時に内容の説明を行い、必要に応じて主治医が直 接説明することもある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 一人ひとりの普段の状態を良く知り、変化があれば看 護師へ報告をし状態を見てもらう。看護師より主治医 やかかりつけ医へ上申し適切な処置や受診が出来るよ うにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際には、本人の心身状況や生活状況を口頭と文 書にて病院関係者へ伝えている。面会が出来る状態に なれば、度々お見舞いに行き情報の交換や相談をして いる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居相談時や家族会で、グループホームの看取りにつ いての指針やホームで出来る事、出来ない事の説明を している。状態の変化時には、その都度家族の意向や 希望を確認し、家族・医師・管理者で話し合い方針を 決めている。決まった事をスタッフ全員に周知しチー ムでの支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を示し、利用者と家族に説明して いる。重度化が進み経口摂取ができなくなった利用者 は、協力病院等へ入院している。医療機関が母体であ り、今後は事業所での看取りも検討している。</p>	看取りの方針を全職員が理解し、知識や技術の向上を 図るなど、受け入れ体制整備の取り組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応について、日頃より看護師から指導・説明を受けて日常のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間や地震・津波・火災を想定した避難訓練を2回以上行っている。近隣の消防署と協力体制を築いている。 (外部評価) 火災や地震、津波を想定して年2回避難訓練を実施している。消火器やスプリンクラー、通報装置を整備するなど安全対策に努めている。運営推進会議でも取り上げ検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせ、本人が分かりやすい言葉掛け(方言等)や対応を心掛けているが、声が大きくなったり語気が荒くなる時がある。ミーティングで言葉掛けや対応について、これで良かったのかどうか、気付いた事や気になる事を話し合い、見直しをしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。職員同士もミーティング等で話し合い、お互いに注意し合っている。トイレ誘導もプライバシーに配慮しさりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かを選ぶ時など、職員側の意向を押し付けないよう本人の思いが表れるまで待っている。耳が遠い方には、本人が分かる身振りや手振りで会話をし、思いを確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、職員の都合を押し付けないよう、その時々の方の状態を把握し希望に添った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや季節に合った洋服を身に着けられるように支援している。2ヶ月に1回の訪問理美容があり、好みの髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人が出来る事、野菜の皮むきや味付けの確認を一緒にしている。皆で食卓を囲み、楽しく食事している。	
			(外部評価) 利用者の希望や好みを取り入れた季節感ある献立は美味しく調理されており、ほとんどの利用者が自力で完食している。職員も同じ物を食べながら見守りや一部介助をしている。食後の片づけを手伝っている利用者もいる。義歯の使用にも配慮し、安全に楽しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の食事摂取量や水分摂取量が分かるように記録をし、個人の身体状況に合わせ、食器の種類や大きさを変えたり食べやすく切っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、自分で歯磨きが出来る方は声掛けにて自分で磨いている。出来ない方は、居室の洗面所まで一緒に行きブラッシングやうがいの介助を行っている。毎日夜間には義歯を洗浄液に浸けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄を心掛け、一人ひとりの排泄時間や心身状況を把握し、それぞれに合わせた時間帯でトイレの声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツやパッドを使用する場合は家族と相談し、大きさ等適切な物を使用するようにしている。また、入居前の生活習慣等に配慮した対応も心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い野菜・果物や乳製品を献立に入れ、少しでも多く摂れるようにしている。便秘時には主治医に上申し、必要に応じて下剤の処方をしてもらい、状況を見ながら服薬の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調に合わせて、昼間に入浴をしてもらっている。	
			(外部評価) その日の気温や利用者の体調、声かけのタイミング等工夫しながら少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。必要に応じて同性介助を行ったり、個々に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の心身状況に合わせて、本人が安心して過ごせるリビングや自室で休んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。薬の処方の変更時には、職員全員が把握できるように申し送りノートへ記入し知らせている。服薬時には、薬を飲み込むまでの確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事をする事が得意な方は、職員と一緒にやっている。野球や時代劇・歌の好きな方はテレビやビデオを見て楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調の良い方と一緒に買い物やドライブに出かけたり、案内状を配りに行っている。家族と一緒に自宅へ行ったり墓参りをしている。	
			(外部評価) 地元のスーパー等へ買物に行ったり、気分転換にドライブをしたりしている。リハビリのため定期的に通院している利用者もいる。事業所の敷地が広く庭で外気浴を楽しむこともできる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金の所持を希望した時は、家族と相談し金額を決めて本人が管理をしている。孫が来た時にお祝いやお小遣いをあげている。個人のお金を預る時は、現金の預かり証を手渡している。また、預り金出納帳を作成し毎月コピーを家族に送り使途内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者自ら電話をかけたがり手紙を書くことはない。孫や子供からの電話や葉書の取次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は広々としたスペースにしている。玄関には四季に応じた手芸用品で季節を演出し、室温や湿度の調整と換気をして心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 毎朝申し送りの後掃除し、清潔保持に努めている。玄関や各居室を見渡すことができる食堂兼居間では、洗濯物を畳んだりお茶を飲んだり、利用者がそれぞれ思い思いに過ごすことができている。風通しも良く、室温等にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う者同士と一緒に過ごせるように座席等配慮をしている。居室で過ごしたり、食卓やリビングで思い思いに過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人と家族に相談をして、本人が使いやすく動きやすい家具の配置にしている。使い慣れた家具や、家族の写真・花等を飾っている。	
			(外部評価) 居室には洗面台、タンス、ベッドが備え付けられており、利用者ごとに写真や花等が飾られてある。職員は利用者のプライバシーに配慮し同意を得ながら、居室の環境整備を行っている。大きな収納があるため利用者のお気に入りのものを十分持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フロー内は段差がなく、浴室・トイレ・廊下・玄関に手すりを付けている。個人の目線に合わせた高さに名札を付けている。自室内の家具の配置は、本人が安全に動けるように工夫している。	